

第7期(2009年度)SSCS(Small Schools for Civil Society)

インターンシップ奨励プログラム

活動カリキュラム(2009年6月～2010年6月)

■ 団体概要

記入日 2009年3月

<p>団体名 (小さな学校)</p>	<p>特定非営利活動法人 さなぎ達</p>
<p>代表者 連絡担当者</p>	<p>代表者:山中 修(理事長) 連絡担当者:川崎 泉子</p>
<p>団体住所等</p>	<p>〒231-0026 住所:神奈川県横浜市中区寿町3-9-8 電話:045-228-1055 FAX:045-228-1055 E-mail:sanagitachi@nifty.com URL:http://www.sanagitachi.com 連絡のつく曜日・時間帯:9:00~18:00(平日)</p>
<p>設立時期</p>	<p>2000年5月(活動開始)、2001年2月(法人化)</p>
<p>団体の活動目的 と 活動内容</p>	<p>日本三大寄せ場の一つである、横浜市寿地区、寿周辺地区においてホームレス及びホームレスに至るおそれのある人々が、自ら自立に向かいやすい環境を整える「自立自援」を主な目的とし、メンタルを一番大切にしながら「医・衣・職・食・住」の各方面で活動しています。</p> <p><b>【活動内容】</b></p> <p>◆「さなぎの家」の運営(9:00~17:00) さなぎの家は365日オープンし、誰でも自由に語れる憩いの場です。またアウトリーチとしてのパトロールを実施し(木パトロール)、そこから路上生活者を癒しの場であるさなぎの家に来て頂き、相談受付を行っています(寿町なんでも SOS 班事業【横浜市健康福祉局と連携】)またさなぎの家に来て頂いた方と一緒に、まちの美化とコミュニケーションの場として緑化活動【寿地区自治会連携】や野菜作りプロジェクトを実施しています。</p> <p>◆「さなぎの食堂」の運営(食堂の営業時間 10:00~18:00) さなぎの食堂は路上生活者や寿町に住んでいる人たち(特に高齢者や介護を受ける方)に、低価格で3食の温かい食事の提供を目的としています。また食堂の作業場はジョブトレーニングの場としての役割を持ち、それと共に、食材コストを下げるため横浜市とローソンの協働により「横浜型もったいない運動」を行っています【(株)ローソンと連携】。</p> <p>◆地域医療モデルの創造(KMVP:寿みまもりボランティアプログラム) 地域医療モデルの創造の中の一環として、孤独死防止のための見守りネットワーク事業【ポーラのクリニックと連携】、寿地区内の単身高齢者や介護不在者に対する見守り訪問、安否確認、簡単な生活援助、終末期の看取りを行うKMVP(寿みまもりボランティアプログラム)を行っています。</p> <p>◆ 広報啓発活動 さなぎ通信やHPを通じた広報活動及び、他団体や学生の見学・研修の受入れを行っています。</p>

【団体名:さなぎ達】

## ■ 活動カリキュラム

活動名	ホームレス及びホームレスに至るおそれのある人々の“自立自援”のための環境整備
主な活動場所 最寄駅と駅からの距離	さなぎの家、さなぎの食堂、寿地区内 石川町駅 徒歩約8分
スケジュール 2009年7月4、5日 ＜前期＞	*カリキュラムは、状況や事情により変更となる場合があります。 <b>「事前研修と入校式」</b> ・インターン開始 ・オリエンテーション ・さなぎの家を中心とした活動(寿地区・さなぎ達全体の理解と把握) ・さなぎの家、さなぎの食堂、KMVP(寿みまもりボランティアプログラム)での体験 ・面談により具体的な活動の決定(さなぎの家、さなぎの食堂、KMVP) ・さなぎ達通信編集委員会の参加(3カ月に一回発行) ・事務局、イベント(さなぎ達コンサート*11月頃開催予定)の補助
2009年11月頃 ＜後期＞	<b>「中間報告会」</b> ・それぞれの場所での活動 ・さなぎ達通信編集委員会の参加(3カ月に一回発行) ・事務局、イベントの補助
2009年3月頃	<b>「9ヵ月インターン修了報告会」</b> ・それぞれの場所での活動 ・さなぎ達通信編集委員会の参加(3カ月に一回発行) ・事務局、イベントの補助
2010年6月頃	・ <b>「修了報告会」</b>
スーパーバイザー (統括受入担当)	山中 修
メンター (日常的受入担当)	櫻井 武麿、川崎 泉子
活動日・ 活動時間について	・9:00～18:00(活動場所によって変わります) ・週1～2回(最低1回は来て欲しいです *テスト期間等は考慮します) 夏期休暇期間:週1回以上
団体を理解するための情報について	・さなぎ達HPを参考にしてください。 ・興味ある方は一度連絡の上見学に来てください。

<p>インターンに期待すること</p>	<p>専門知識は必要ありません。広く利用者を理解、把握し、ひとりひとりの身になって考えられる、意欲的・積極的な方を希望します。ご本人の希望を実現させることを中心に、一緒に考え進めていただきたいと思います。</p>
<p>団体からのメッセージ</p>	<p>人口 6500 人、高齢化率 40.3 パーセント、生活保護受給者率 85 パーセント、かつて日雇い労働者のまちと言われ活気のあった寿地区は、「高齢者のまち、福祉のまち」と呼ばれるようになりました。さなぎ達では「衣、医、食、職、住」を 5 つの柱に、メンタルを一番重点に置きながら「自立自援」という独自の考えのもと様々な活動を行っています。</p> <p>ここでは多くの人との「出会い」が待っています。時には悩み、考えてしまうこともあると思いますが、一緒に考え楽しみながら、他では味わえない非日常的な体験から参加者それぞれの「学び」を見つけてくださればと思います。きっと皆さんの忘れられない経験が出来ることと思います。</p> <p>また今年度、さなぎ達では様々な新たな動きが予定されています。さなぎ達では設立当初から多くの学生が関わり様々なプロジェクトを行われてきました。(さなぎ達スタッフの中に SSCS 修了生がいます。)皆さんと一緒に、さなぎ達を盛り上げていけたらと思います。</p>
<p>団体の写真</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <span>さなぎの食堂配膳の様子</span> <span>KMVP 誕生日会の様子</span> <span>スタッフ達</span> </div>
<p>修了生からのメッセージ</p>	<p>さなぎ達での 9 カ月は考え悩むことも多くありましたが、それ以上の出会いと、知識では無い多くの学び、そして自分自身を変える大きなキッカケを得ることが出来ました。目で見て、心で感じ、考え沢山悩んでください。一生忘れられない 1 年になるはずです。</p> <p style="text-align: right;">第 5 期インターン 川崎 泉子 (早稲田大学芸術学校 3 年・参加当時)</p> <p>このインターンシッププログラムは、“つながる”キッカケをくれます。色々な人とつながること、自分自身の経験・未来へつながること・・・自分次第で、そのつながりもそこから得ることも無限大に広がられます。私のインターン先であった“さなぎ達”では、非日常的で異常な日々が繰り返されています。でも、それと同時に、日常的で普通な日々が過ぎているのです。さまざまな人々が、時には力を合わせたり、ぶつかり合いながら、自分なりに生きている姿を目にすることができます。市民社会において、この“つながる”ことがどれほど重要かを考えられる場所の 1 つだと思います。それでは、レッツ“つながる”！！</p> <p style="text-align: right;">第 5 期インターン 高野 佳子(中央大学大学院修士 1 年・参加当時)</p> <p>「さなぎ達」は実にさまざまな人が集まる場所です。一度立ち寄ってみると、普段の生活での通常の出会いが、年齢や社会的立場などによっていかに限定されていたかを実感できるはず。さなぎ達の良さは、世の中いろいろな人が、いろいろな人生を背負って生きている、その悲喜交々に、直接関わるきっかけを与えてくれるところにあります。いままで出会ったことがなかったような人と出会って、自分がこれまで「当たり前」だと思っていたことが覆されるその瞬間こそ、もっとも貴重な学びの体験です。わたしは、ここでそうした学びの機会を得られて、とても良かったと思っています。</p> <p style="text-align: right;">第 6 期インターン 高橋 章子 (慶應義塾大学大学院博士 1 年・参加当時)</p>